



エスプレランス丸山で開かれたサミットは、平成元年から参加市町の持ち回りで行われ、今回で二十一回目。阿久比町では七年ぶり三回目の開催となりました。また、このサミットは、今年十月に愛知・名古屋で開かれる、生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)のパートナーシップ事業でもありました。

「ほたるサミット」は、ホタルの保護を通じて、自然環境を悠久に守る道を模索するため、「日本のほたるの里」を目指す市町の代表者が一堂に会し、活力ある緑豊かなふるさとづくりを考える交流の場です。今回サミットに参加したのは、和歌山県紀の川市、岡山県真庭市、福岡県北九州市、山口県下関市、滋賀県米原市、そして阿久比町の六市町です。

開催地を代表して竹内町長は、小さな生き物と共生しなければ人間は滅んでしまう。「自然と人間の共生の大切さ」を、このサミットを通じて阿久比町から全国へ、さらには世界へ発信していきたい」とあいさつ。来賓祝辞では神田真秋愛知県知事が、「サミット開催で、身近な自然を守っていく」とする全国市町の前向きな姿に感銘を受けます。COP10への後押しもしていただきました。ホタルがすめる環境づくりや活動を全国に広めてください」と述べました。

六市町が意見交換をする「ほたるフォーラム」では、自然と人間の共生ホタルを守るつ」をテーマに、それぞ

れの代表者がホタル保護の取り組み(四ページで紹介)などを報告しました。

古くから人間と共生してきたホタルは、環境の変化に敏感なため、自然環境のバロメーターとして貴重な役割を果たしています。ホタルの淡い光は、私たちに心の安らぎを与えてくれるだけでなく、その環境が安全であることまで教えてくれます。

今回の「ほたるサミットあぐい10」では、生物多様性を保全するため、社会や人間のあり方を、今一度真剣に見直すことができました。次世代へ「ホタルの光」を引き継いでいくためにも、実り多きサミットとなりました。

# 自然と人間の共生 ホタルを守るつ

「日本のほたるの里」を目指す全国六市町の代表者が、六月二十五日阿久比町に集い、「ほたるサミットあぐい10」を開催しました。今回のサミットは、生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)のパートナーシップ事業でもあり、ホタル保護を通じて、自然と人間の共生を目指すことを、阿久比町から全国へ、そして全世界に向けて情報発信しました。

